




---

本部より

---

平成20年度 第1回総会開催について

社団法人日本動物学会 会長 佐藤矩行

平成19年度事業報告、及び決算報告に関し、下記の日程で総会を開催いたします。会員皆様におかれましては、掲載されています原案をよくお読みください。また、総会ご欠席の方々は、お送りしております往復葉書で委任状を必ずご投函ください。総会へのご出席はもちろん可能です。是非ご参集ください。

日時：平成20年3月15日(土) 午後1時より

場所：日本動物学会本部事務局

東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル3階

議題：第一号議案 平成19年度事業報告について

第二号議案 平成19年度決算報告について

以上

平成19年度事業報告書(案)

1. 学術集会の開催

9月20日～22日 日本動物学会大会第78回大会

弘前大学文京町キャンパス(弘前市) 参加者数943名

演題数607 一般シンポジウム12 関連集会5

高校生ポスタ - 21

公開シンポジウム「先生と楽しむ動物学 - 白神・津軽の動物たち」参加者80人

「動物学ひろば - 動物たちがやってきた - 」18展示 参加者数300人(文部科学省公開促進費 B 補助事業)

2. 全国7支部による支部大会およびシンポジウム開催について

3月9日 北海道支部第518回支部講演会

北海道大学理学部本館「発生学研究の展望と回顧」

演題4 参加者90人

3月20日 北海道支部第519回支部講演会

北海道大学理学部本館 矢沢洋一「魚介類筋収縮のCa制御機構」参加者11人

3月24日 関東支部第59回大会

首都大学東京南大沢キャンパス 参加者数193名

発表演題数67題 一般公開企画「動物学ひろば」

25件 参加者500人

公開シンポジウム「海は生命のふるさと」参加者210人

4月14日 九州支部熊本例会(三学会合同)

熊本大学理学部 演題数3 参加者72人

5月19日 近畿支部研究発表会

神戸山手大学3号館 演題12 参加者42人

5月19・20日 第59回中国四国支部大会(日本植物学会中国四国支部,日本生態学会中国四国支部合同)

動物学会からの発表数;ポスター25,口頭発表18

高校生ポスター発表27

三学会合同公開シンポジウム「遺伝子からみた生物の分布と保全 - ブナ・コナラの仲間とブナ林にすむ動物の遺伝的分化と保全 - 」

5月19・20日 九州支部大会

九州産業大学工学部 演題20 参加者89人

5月26日 九州支部沖縄例会(三学会合同)

沖縄国際大学 演題3 参加者300人

6月26日 北海道支部第520回支部講演会

北海道大学電子科学研究所 Yusuke Ikemoto (University of Tokyo); Mathematical Model of

Caste Differentiation of Termite for Understanding of Dynamical Adaptive Behaviors in

Mobiligence Nicolas FRANCESCHINI (Motion and Perception Institute & CNRS and Univ. of the

Mediterranean); Insect visuo-motor control: a return trip from biology to robotics 参加者50人

6月30日・7月1日 中部支部大会

三重大学講堂小ホール シンポジウム「国際オリンピックのメダリストを目指して - チャレンジ清新の増幅 - 」演題5 一般研究発表 演題19(内

ポスター10) 参加者80人

7月7日 九州支部鹿児島例会(三学会合同)

鹿児島大学理学部 演題2 参加者25人

7月21日 関東支部公開講演会

国際基督教大学理学部 N-220 講義室「今,こんな動物がおもしろい! - さまざまな生殖様式 - 」演題

3 参加者数114人

- 7月25日 北海道支部第521回支部講演会  
北海道大学理学部5号館 日下部岳広(兵庫県立大学大学院生命科学研究科)「情報科学と比較ゲノムを活用したホヤ遺伝子発現調節機構の解析」  
参加者30人
- 7月28日 東北支部大会  
秋田市・カレッジプラザ大講義室 演題14 参加者39人
- 8月8日 北海道支部第53回大会  
とかちプラザ研修室 演題16 特別講演2 参加者41人
- 8月19日 九州支部公開講演会  
「知ってるつもりで知られていない身近な昆虫の姿」  
九州大学国際ホール 演題4 展示解説11 参加者数150人(文部科学省公開促進費B補助事業)
- 10月21日 九州支部後援  
熊本大学理学部公開実習1「遺伝子を見てみよう」  
熊本大学理学部 参加者3人
- 11月10日 九州支部佐賀例会(三学会合同)  
佐賀大学農学部 演題3 参加者40人
- 11月11日 九州支部後援  
熊本大学理学部公開実習2「遺伝子を見てみよう」  
熊本大学理学部 参加者10人
- 11月11日 サイエンスワールド2007(中国四国支部後援)  
カリエンテ山口 特別講演2, 科学展示・実験, 科学なんでも質問コーナー, サイエンスセッションなど 参加者400人
- 11月17日 九州支部宮崎例会(三学会合同)  
宮崎大学教育文化学部 演題2 参加者20人
- 11月17日 九州支部熊本例会(三学会合同)  
熊本県立大学 演題3 参加者30人
- 11月24日 近畿支部公開講演会  
奈良県立医科大学・厳檀会館「単細胞生物 ワンダフル・ライフ!!」 演題2 参加者37人「生きものなんでも相談」も開催
- 12月2日 土佐生物学会2007例会/中国四国支部  
高知大学共通教育棟 演題17(高校生3演題含む)  
参加者91人
- 12月8日 九州支部長崎例会(三学会合同)  
長崎大学医学部 演題7 参加者22人
- 12月8日 九州支部鹿児島例会(三学会合同)  
鹿児島大学理学部 高等学校における生物研究成果発表 口演3, ポスター発表もあり
- 特別口演; 富山清升「島嶼の外来種問題 - 鹿児島で騒ぎになったアフリカマイマイの紹介など」 参加者80人
- 12月8日 九州支部福岡例会(三学会合同)  
九州大学農学部 演題3 参加者38人
- 12月15日 中国四国支部愛媛県例会  
愛媛大学理学部 演題4 参加者20人
- 12月16日 九州支部大分例会(三学会合同)  
大分大学 演題5 参加者30人
3. 動物学の普及活動  
国際生物学オリンピック支援(参加高校生全員に動物学カレンダー贈呈)
4. 学会誌・図書の刊行  
Zoological Science の発行 24巻1号~12号  
生物科学ニュー - スの発行 No.421 - 432  
学術図書「21世紀の動物科学」全11巻刊行(4・9巻は文部科学省公開促進費B補助事業)
5. 動物学研究業績の表彰と研究奨励  
平成19年度日本動物学会賞  
酒泉 満(新潟大学理学部自然環境科学科)/  
松田 勝(宇都宮大学遺伝子実験施設)  
「メダカの性決定に関する遺伝子・分子生物学的研究」  
平成19年度日本動物学会奨励賞  
太田欽也会員 理研 発生・再生科学総合研究センター 形態進化研究グループ  
「ヌタウナギの発生学」  
柘原 宏会員 北海道大学大学院理学研究院自然史科学分野  
「紐形動物の系統分類学」  
出口竜作会員 宮城教育大学  
「動物の卵成熟および発生の開始機構の比較解析」  
平成19年度日本動物学会 OM 賞  
佐倉 緑会員 北海道大学電子科学研究所神経情報研究分野  
「コオロギの闘争行動にかかわるクチクラ体表物質識別の神経機構の解明」
- 論文賞
- Reproductive Biology**  
Induction of Female-to-male Sex Change in the Honeycomb Grouper (*Epinephelus merra*) by 11-ketotestosterone Treatments.  
Ramji K. Bhandari, Mohammad A. Alam, Kiyoshi

Soyano and Masaru Nakamura  
Zoological Science 23 (1) : 65-69 (2006)

ハタは雌から雄へ性転換する。この性転換の内分泌調節機構を解明するために、雌に魚の天然の雄性ホルモンである11-ケトテストステロン処理を行った。処理した全ての個体の卵巣は成熟した精巣を持つ雄へと転換することを明らかにした。この雄の精子は、正常雌の成熟卵と受精することを証明した。このように本論文は性転換に雄性ホルモンが重要な働きをしていることを明らかにした価値の高い論文である。さらに魚類養殖への応用にも貢献するものである。

### Section: Ecology

Long Tails Affect Swimming Performance and Habitat Choice in the Male Guppy.

Kenji Karino, Kazuhiro Orita and Aya Sato  
Zoological Science 23 (3) : 255-260 (2006)

淡水魚グッピーの雄に著しい派手な色彩模様と長い尾鰭は、性淘汰で進化した性的二型のモデルとして研究されてきた。だが、進化生態学の領域で理論的に仮定される繁殖上の利益と生存上のコストは、確たる実測がことのほか難しい。この論文で著者らは、単に信じられてきただけの、長い尾鰭にかかるコストと生息微小環境との相互作用を、人工・自然条件下で明解な測定値により初めて立証した。教科書に長く引用されることだろう。

### Section: Animal Diversity and Evolution

Round-trip Catadromous Migration in a Japanese Amphipod, *Sternomoera rhyaca* (Gammaridea: Eusiridae).

Keiko Kuribayashi, Haruo Katakura, Masaki Kyono, Matthew H. Dick and Shunsuke F. Mawatari  
Zoological Science 23 (9) : 763-774 (2006)

本論文は、分類学の遂行中に遭遇した興味深いヨコエビの行動を進化的に考察したもので、手法が新しいわけでもないが、わくわくさせられる論文である。対象分類群こそ違え、分類学は種記載論文、系統学はDNA配列比較という決まり切った論文の多い中、本論文は、かつての「動雑」を思わせるような、野外研究における発見の醍醐味を十分に表現した論文であり、完成度も高い。

### Developmental Biology

Early Development of Zooxanthella-containing Eggs of the Corals *Porites cylindrica* and *Montipora*

*digitata*: The Endodermal Localization of Zooxanthellae.

Mamiko Hirose and Michio Hidaka  
Zoological Science 23 (10) : 873-881 (2006)

著者らはサンゴ類における褐虫藻共生の動態、それも個体発生過程における共生開始の機構を知るため、サンゴの2種 *Porites cylindrica* と *Montipora digitata* の初期発生における褐虫藻の分布を詳細に検索した。その結果、褐虫藻の分布機構は原腸形成機構のタイプと連関して種レベルの違いを示すことが示された。比較動物学的にきわめて質の高い、興味深い論文である。

### Animal Diversity and Evolution

Time Scale for Cyclostome Evolution Inferred with a Phylogenetic Diagnosis of Hagfish and Lamprey cDNA Sequences.

Shigehiro Kuraku and Shigeru Kuratani  
Zoological Science 23 (12) : 1053-1064 (2006)

本論文は円口類の進化におけるタイムスケールについてメクラウナギとヤツメウナギのcDNA配列情報をもとにイン・シリコの解析を用いて進化学的考察を加えたものである。この考察から、両者が円口類の共通祖先系が無顎類の系譜から別れた直後に比較的早く分岐したという結論を導いている。この研究は動物学的に見て重要な円口類の進化という大問題に新たな方法論を持って鋭く切り込むものとして高く評価される。

#### < 安増基金 >

中村修平会員 基礎生物学研究所生殖遺伝学研究室  
(北海道大学大学院理学研究科)

児玉有紀会員 山口大学大学院理工学研究科自然共生科学専攻

#### < 江上基金 >

保住暁子会員 筑波大学下田臨海実験センター

小林 卓会員 徳島文理大学 香川薬学部

#### < 川口基金 >

佐藤千尋会員 東北大学大学院 生命科学研究科

中島啓介会員 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻動物学教室

### 6. 研究及び調査

#### 1) 動物学資料保存に関する調査

データベースの作成

#### 2) 実験動物取り扱いに関する指針の検討

3) 男女共同参画学協会連絡会として科学技術系専門  
職の男女共同参画実態調査の実施

7. SPARC/JAPAN 事業への参画

平成19年度収支決算書について

平成19年度決算書類は、すべて新しい法人会計基準に則り、決算書類を作成しましたことをはじめにお伝えします。また、支部会費を「本部会計」に合算し、動物学会全体の活動が決算書で見ることができるようになりました。支部長、支部会計の方々にはご理解、ご協力をありがとうございました。支部会費につきましては、「決算上、合算はするが、あくまでも支部で使う資金」として扱うということになっています。

さて、収支計算書をご覧ください。平成19年度は、本会は、地道で、また先を見据えた「支出削減」を行うことで、収支は「黒字」へ転じました。昨年、弘前大会で承認頂いた「予算書」に基づき、予算と決算額の差異が示されています。収入は特に大きく増加した科目はありませんが、会費収入は、平成18年度の落ち込みをカバーして2200万円を維持できたことは会員皆様のご支援のおかげと考えます。昨年の予算修正で、補助金等の金額を実際に則した金額にしましたため、予算との差異が小さく出ておりますが、実際には平成18年度収入が7400万円規模であったのが、「科研費削減等の影響」により、昨年は6100万円規模の収入となっていることにご注目ください。法人として活動する本会は、基本的には営利活動

## 収支計算書

平成19年 1月 1日から平成19年12月31日まで

社団法人 日本動物学会  
一般会計

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用収入	10,000	3,464	6,536
特定資産運用収入	10,000	3,464	6,536
特定資産利息収入	0	27,766	△ 27,766
特定会費収入	0	27,766	△ 27,766
会費収入	40,000	33,000	7,000
会費収入	40,000	33,000	7,000
通団費収入	21,570,000	22,149,000	△ 579,000
常体助費収入	19,000,000	19,668,300	△ 668,300
支部員会費収入	1,000,000	757,500	242,500
支部員会費収入	20,000	0	20,000
支部員会費収入	1,550,000	1,723,200	△ 173,200
北海道支部	90,000	118,400	△ 28,400
北海道支部	90,000	121,600	△ 31,600
北海道支部	630,000	692,300	△ 62,300
北海道支部	200,000	219,900	△ 19,900
北海道支部	200,000	234,400	△ 34,400
北海道支部	210,000	197,600	12,400
北海道支部	130,000	139,000	△ 9,000
事業収入	19,400,000	21,041,411	△ 1,641,411
学術誌発行収入	9,400,000	9,758,058	△ 358,058
学術誌購読料収入	2,000,000	2,492,601	△ 492,601
学術誌別刷代収入	900,000	1,176,500	△ 276,500
学術集刊代収入	6,000,000	5,500,000	500,000
支部活動参加費収入	500,000	588,957	△ 88,957
支部活動参加費収入	10,000,000	9,337,000	663,000
支部活動補助収入	0	1,946,353	△ 1,946,353
支部活動補助収入	0	242,124	△ 242,124
支部活動補助収入	0	20,000	△ 20,000
補助金収入	0	1,684,229	△ 1,684,229
補助金収入	12,800,000	12,800,000	0
日本学術振興会学術誌刊行補助金	7,900,000	7,900,000	0
文部科学省科学研究費公開促進費	2,300,000	2,300,000	0
日本学術振興会学術誌刊行補助金	2,600,000	2,600,000	0
寄付収入	0	1,784,470	△ 1,784,470
寄付収入	0	1,784,470	△ 1,784,470
雑収入	1,700,000	1,478,232	221,768
雑収入	0	112,658	△ 112,658
雑収入	1,700,000	1,365,574	334,426
安増基金取崩収入	300,000	300,000	0
安増基金取崩収入	300,000	300,000	0
安増基金取崩収入	1,000,000	500,000	500,000
安増基金取崩収入	300,000	700,000	△ 400,000
事業活動収入計	57,420,000	61,117,343	△ 3,697,343

2. 事業活動支出		42,800,000	37,459,975	5,340,025
学術集費会支の開催		10,000,000	8,535,087	1,464,913
会場印刷		130,000	1,023,243	△ 893,243
賃印通謝消雜懸		4,000,000	384,100	3,615,900
信		1,150,000	1,240,000	△ 90,000
運		500,000	324,341	175,659
品		1,000,000	1,379,100	△ 379,100
親		500,000	680,015	△ 180,015
誌		220,000	247,704	△ 27,704
英文学術誌の刊行		2,500,000	3,256,584	△ 756,584
Zoological Science印刷出版費		19,500,000	17,874,775	1,625,225
刷刷搬		12,000,000	13,089,090	△ 1,089,090
運集誌の刊行		2,000,000	1,081,080	918,920
邦文情報報の刊行		1,500,000	1,119,444	380,556
印刷信		4,000,000	2,585,161	1,414,839
運		2,800,000	2,724,548	75,452
学術誌		1,800,000	1,721,966	78,034
支開シ		600,000	625,942	△ 25,942
研究の奨励		400,000	376,640	23,360
奨励物		2,500,000	2,074,391	425,609
日本動物学		2,300,000	2,302,215	△ 2,215
江安川藤高		2,650,000	1,538,616	1,111,384
校生研		2,700,000	2,256,205	443,795
支委		200,000	100,000	100,000
廣物報資料委		150,000	150,000	0
動女共育費		1,000,000	500,000	500,000
管		300,000	300,000	0
給法会旅通消H製光謝賞租雜		300,000	300,000	0
定		300,000	300,000	0
費信		300,000	0	300,000
P・会		150,000	606,205	△ 456,205
員名簿		50,000	20,000	△ 10,000
本水		0	20,000	△ 20,000
借		300,000	74,138	225,862
公		100,000	0	100,000
入支出		50,000	29,743	20,257
入支出		100,000	44,395	55,605
入支出		50,000	0	50,000
事業活動支出計		57,420,000	51,762,696	5,657,304
事業活動収支差額		0	5,657,304	△ 5,657,304
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計		0	0	0
2. 投資活動支出				
固定資産取得		0	149,945	△ 149,945
什器備品購入		0	149,945	△ 149,945
投資活動支出計		0	149,945	△ 149,945
投資活動収支差額		0	△ 149,945	149,945
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出計		0	0	0
財務活動収支差額		0	0	0
当期収支差額		0	3,606,961	△ 3,606,961
前期繰越収支差額		0	852,984	△ 852,984
次期繰越収支差額		0	4,459,945	△ 4,459,945

## 財産目録

平成19年12月31日現在

社団法人 日本動物学会  
一般会計

科 目	金 額	
<b>I 資産の部</b>		
1. 流動資産		
現金預金	10,025,870	
現金手許有高	95,888	
郵便振替貯金：本郷郵便局	3,989,594	
普通預金：みずほ銀行本郷支店	1,873,875	
普通預金：三菱東京UFJ銀行春日町支店	208,719	
普通預金：デパートベース補助金口座	1,669,138	
普通預金：りそなニュース口座	56,336	
支部現金預金	2,132,320	
未収金	1,071,200	
流動資産合計		11,097,070
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
貸付信託：中央三井信託銀行上野支店	10,000,000	
定期預金：三菱UFJ信託銀行本店営業部	2,000,000	
基本財産合計	12,000,000	
(2) 特定資産		
安増基金資産	229,698	
江上基基金資産	5,023,251	
OM賞基金資産	10,503,126	
川口基金資産	8,688,122	
特定資産合計	24,444,197	
(3) その他固定資産		
什器備入品	1,181,597	
電話加証	72,800	
保険	800,000	
その他固定資産合計	2,054,397	
固定資産合計		38,498,594
資産合計		49,595,664
<b>II 負債の部</b>		
1. 流動負債		
未払会費金	272,740	
前受り	5,094,500	
預り	624,885	
北海道支部会費	27,200	
東北支部会費	28,000	
関東支部会費	168,000	
中部支部会費	55,200	
近畿支部会費	68,000	
中国・四国支部会費	48,800	
九州支部会費	39,200	
社会保険料	107,472	
住民税	17,600	
源泉所得税-給与	45,413	
源泉所得税-謝金	20,000	
仮払法人税等	23,500	
未払法人税等	421,000	
未払消費税	200,500	
流動負債合計		6,637,125
負債合計		6,637,125
正味財産		42,958,539

## 貸借対照表

平成19年12月31日現在

社団法人 日本動物学会  
一般会計

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	10,025,870	14,999,474	△ 4,973,604
未収金	1,071,200	1,493,500	△ 422,300
流動資産合計	11,097,070	16,492,974	△ 5,395,904
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
貸付信託：中央三井信託銀行上野支店	10,000,000	10,000,000	0
定期預金：三菱UFJ信託銀行本店営業部	2,000,000	2,000,000	0
基本財産合計	12,000,000	12,000,000	0
(2) 特定資産			
安増基金資産	229,698	523,222	△ 293,524
江上基基金資産	5,023,251	5,315,569	△ 292,318
OM賞基金資産	10,503,126	10,000,570	502,556
川口基金資産	8,688,122	9,264,514	△ 576,392
特定資産合計	24,444,197	25,103,875	△ 659,678
(3) その他固定資産			
什器備入品	1,181,597	1,181,049	548
電話加証	72,800	72,800	0
保険	800,000	800,000	0
その他固定資産合計	2,054,397	2,053,849	548
固定資産合計	38,498,594	39,157,724	△ 659,130
資産合計	49,595,664	55,650,698	△ 6,055,034
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払会費金	272,740	1,781,113	△ 1,508,373
前受り	5,094,500	12,214,500	△ 7,120,000
預り	624,885	1,357,877	△ 732,992
仮払法人税等	23,500	19,000	4,500
未払法人税等	421,000	70,000	351,000
未払消費税	200,500	197,500	3,000
流動負債合計	6,637,125	15,639,990	△ 9,002,865
負債合計	6,637,125	15,639,990	△ 9,002,865
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
民間補助金	1,668,830	4,168,760	△ 2,499,930
寄付補助金	22,503,126	22,000,570	502,556
指定正味財産合計	24,171,956	26,169,330	△ 1,997,374
(うち基本財産への充当額)	( 12,000,000 )	( 12,000,000 )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 10,503,126 )	( 10,000,570 )	( 502,556 )
2. 一般正味財産	18,786,583	13,841,378	4,945,205
正味財産合計	42,958,539	40,010,708	2,947,831
負債及び正味財産合計	49,595,664	55,650,698	△ 6,055,034

### 正味財産増減計算書

平成19年 1月 1日から平成19年12月31日まで

社団法人 日本動物学会  
一般会計

科 目		当年度
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
基本	3,464	3,464
特定	27,766	27,766
受取	33,000	33,000
受取	33,000	33,000
受取	22,149,000	22,149,000
受取	19,668,300	19,668,300
受取	757,500	757,500
受取	1,723,200	1,723,200
受取	118,400	118,400
受取	121,600	121,600
受取	692,300	692,300
受取	219,900	219,900
受取	234,400	234,400
受取	197,600	197,600
受取	139,000	139,000
受取	19,357,182	19,357,182
受取	9,759,058	9,759,058
受取	2,492,601	2,492,601
受取	1,176,500	1,176,500
受取	5,500,000	5,500,000
受取	5,588,957	5,588,957
受取	9,337,000	9,337,000
受取	262,124	262,124
受取	242,124	242,124
受取	20,000	20,000
受取	15,299,930	15,299,930
受取	10,926,490	10,926,490
受取	2,300,000	2,300,000
受取	2,073,440	2,073,440
受取	1,284,470	1,284,470
受取	1,284,470	1,284,470
受取	1,405,332	1,405,332
受取	112,658	112,658
受取	1,292,674	1,292,674
受取	59,560,144	59,560,144
(2) 経常費用		
学術	37,540,265	37,540,265
集	8,535,087	8,535,087
集	1,023,243	1,023,243
集	384,100	384,100
集	1,240,000	1,240,000
集	324,341	324,341
集	1,379,100	1,379,100
集	680,015	680,015
集	247,704	247,704
集	3,256,584	3,256,584
集	17,882,175	17,882,175
集	13,089,090	13,089,090
集	1,081,080	1,081,080
集	1,126,844	1,126,844
集	2,585,161	2,585,161
集	2,724,548	2,724,548
集	1,721,966	1,721,966
集	625,942	625,942
集	376,640	376,640
集	2,074,391	2,074,391
集	2,302,215	2,302,215
集	1,538,616	1,538,616
集	2,329,095	2,329,095
集	100,000	100,000
集	150,000	150,000
集	500,000	500,000
集	300,000	300,000
集	300,000	300,000
集	300,000	300,000
集	679,095	679,095
集	60,000	60,000
集	20,000	20,000
集	74,138	74,138
集	29,743	29,743
集	44,395	44,395
集	18,306,024	18,306,024
集	5,440,014	5,440,014
集	800,184	800,184
集	292,072	292,072
集	2,484,620	2,484,620
集	990,598	990,598
集	363,456	363,456
集	750,000	750,000
集	1,850	1,850
集	149,173	149,173
集	3,346,365	3,346,365
集	1,391,760	1,391,760
集	200,500	200,500
集	117,518	117,518
集	1,977,914	1,977,914
集	55,846,289	55,846,289
集	3,713,855	3,713,855

2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
繰越支部活動収入	1,684,229
経常外収益計	1,684,229
(2) 経常外費用	
固定資産除却損	31,879
経常外費用計	31,879
当期経常外増減額	1,652,350
税引前当期一般正味財産増減額	5,366,205
法人税、住民税及び事業税	421,000
当期一般正味財産増減額	4,945,205
一般正味財産期首残高	13,841,378
一般正味財産期末残高	18,786,583
II 指定正味財産増減の部	
受取補助金等	10,500,000
日本学術振興会学術誌刊行補助金	7,900,000
日本学術振興会データベース補助金	2,600,000
受取寄付金	1,002,556
受取OM賞寄付金	1,002,556
一般正味財産への振替額	△ 13,499,930
OM賞基金資産の振替	△ 500,000
受取補助金の振替	△ 12,999,930
当期指定正味財産増減額	△ 1,997,374
指定正味財産期首残高	26,169,330
指定正味財産期末残高	24,171,956
III 正味財産期末残高	42,958,539

はできません。「公益的意味に適合する活動」しか行えません。従いまして補助金の削減はそのまま、学会収支規模の縮小を意味するということとなります。「収入」は減少しています。

しかし、それでも当初申し上げました通り、支出の削減に本会は成功いたしました。ZS 通信費は現在2ヶ月に1回発送を行うことで、約100万円の削減となりました。編集費は、校正等の体制を見直し、簡素化しつつ、校正の質が落ちない努力を行いました。Zoological Science の印刷費は、予算は1200万円と縮小されているため、予算を上回っているように見えますが、平成18年度決算約1700万円から1300万円へ印刷経費の削減を行いました。管理費支出については本会は、予算規模から考えますと小さく、通常は、法人収入全体の5割というのが妥当な線と言われており、文部科学省実地検査においても、「6割を超えていないか」という審査が行われます。特に給与手当に関しましては平成18年水準で880万円(2人分、事務局長、編集査読システム管理者給与)でありましたものを、編集査読システム管理を外注することで、コスト削減を行い、その金額は「謝金」に合算されているため、謝金の予算が枠を超えました。平成19年度における給与手当は、事務局長の給与と編集査読管理者の1-3月分約100万円の合算金額です。事業活動支出合計約5700万円の下にある数字3,756,906円が平成19年度の収入から支出を差し引いた金額ということになります。支部からの前年繰り越し分が170万円ほどあったことを割り引いても、科研費削減500万円の縮小財政の中で、黒字へ転じたことは、本会の会計全体が健全で、また無駄がないということを示していると思われまます。

なお、本学会の会計の健全化に永井事務局長が多大な

努力をされていることを書き添えます。

会計幹事 稲葉一男

## 大会だより

### 社団法人日本動物学会 第79回大会(福岡)第2回案内

はじめに

第79回大会は、2008年9月5日(金)から7日(日)の3日間の会期で、福岡市の福岡大学七隈キャンパスを会場に開催されます。今大会の一般発表は、昨年度と同様に口頭発表とポスター発表の両方で行う予定です。

福岡大学七隈キャンパスは福岡市の中心街から地下鉄で20分程度の南西郊外にあります。本大会が大学の夏季休業中の9月上旬に開催されるため、屋外ではかなり暑いことが予想されますが、学会会場は冷房を完備していますので快適な環境を提供できる見込みです。

福岡は、日本海に面した歴史のある地域で、よく知られた遺跡として弥生時代の板付遺跡や鎌倉時代の元寇防塁跡などがあり、石器時代の遺跡もあります。また、太宰府や阿蘇、九重、別府、長崎などの観光地への交通の便もたいへん良いところですので、会期前後に観光もお楽しみいただきたいと思います。

福岡市にはホテルなど宿泊施設が豊富にあります。アジアマンス・アジア太平洋フェスティバルなどの開催期間とも重なりますので、どうぞお早めに宿泊等のご予約をお願いします。暑い季節に暑い九州での開催になりますが、多数の会員の皆様のご参加を心からお待ちしております。

第79回大会準備委員会委員長 横張文男

( Z - 15 )

1. 会期

2008年9月5日(金)~7日(日)

2. 会場

福岡大学七隈キャンパス

〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1

(詳しくは福岡大学ホームページ<http://www.fukuoka-u.ac.jp/>をご覧ください)

3. 交通

航空機利用の場合は福岡空港駅から、JR 利用の場合は博多駅から地下鉄空港線(姪浜・西新・西唐津方面行き)に乗り、天神駅で下車し地下鉄七隈線乗り継ぎ用改札を通り抜け、七隈線の天神南駅まで地下街を歩き(約10分間)、天神南駅から七隈線(橋本方面行き)に乗り換え、福大前駅で下車して下さい。

4. 大会タイムスケジュール

一般発表以外の予定は以下のとおりです。都合により最終的なスケジュールは多少変更される場合があります。

- シンポジウム 2日目および3日目の午前
- 関連集会 1日目の夕刻
- 総会および受賞者講演 2日目の午後
- 懇親会 2日目の午後7時から  
(ホテルニューオータニ博多)
- 動物学ひろば 3日目

5. シンポジウムおよび関連集会の公募(3月31日締め切り)

シンポジウムおよび関連集会開催のご希望がございましたら、責任者は3月31日(月)までに企画書(シンポジウム名または関連集会名と概要、責任者とその連絡先、参加予想人数)をメールに添付して大会準備委員会(doubutu79@fukuoka-u.ac.jp)宛にお送りください。

会場には液晶プロジェクターを用意しております。なお、開催できる会場・時間に制限がありますので、ご希望に添えない場合もあります。

6. 一般発表(6月5日締め切り)

本大会での一般発表は、口頭発表(300題程度)とポスター発表(300題程度)の両方を予定しています。発表要項は予稿集と大会ホームページ(<http://www.zsj2008.umin.jp/>)に掲載します。

口頭発表は1日目の午前と午後および3日目の午後、ポスター発表の展示は1日目と3日目との午前と午後、ポスター発表の討論時間は1日目と3日目との午後に予定しております。

希望する発表様式は演題申込み時に選択してください。できるだけご希望に添うように致しますが変更していただく場合もあります。

口頭発表は、会場設置のコンピュータ操作による液晶プロジェクターを使用いたします。OSはWindows XPで、アプリケーションにはパワーポイント2003を使用する予定です。パワーポイントの発表ファイルをUSBフラッシュメモリまたはCD-ROMでお持ちいただき、大会会場の発表ファイル受付デスクで指定のコンピュータにコピーしていただきます。発表ファイルの大きさは100MBまでです。発表に関するお問い合わせは、大会準備委員会の発表ファイル受付担当者(中川裕之 hnakagawa@fukuoka-u.ac.jp)にお願い致します。

主たる発表者(口頭発表の登壇者およびポスター発表の主な説明者)としての発表は、1人1題に限ります。発表は日本動物学会会員に限られますので、非会員の方は必ず日本動物学会に入会し、会費納入後に発表申込みをしてください。入会および会費納入手続きについては次の日本動物学会ホームページをご覧ください。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/zsj/zool/>

学会員であっても、平成20年度までの会費を未納の方は発表できませんので、会費納入後に発表申込みをしてください。

7. 大会参加および演題登録の方法

インターネットでの申込みを原則とします。インターネットを利用できない場合は、大会準備委員会に郵送でお申し込みください。

参加希望者は、大会ホームページ(<http://www.zsj2008.umin.jp/>)にアクセスし、大会参加のみの方は参加登録を、一般発表をされる方は演題登録を行ってください(演題登録は参加登録を兼ねます)。大会ホームページは日本動物学会ホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/zsj/zool/>)にもリンクしています。

登録が完了すると5桁の登録番号が発行され画面に表示されます。この登録番号は、参加費のお支払いの際に必要なので、必ず印刷して保管してください。

発表申込みには日本動物学会の会員番号の入力が必要です。入力がなければ申込みを完了できませんので、必ず日本動物学会ホームページの会員情報ページにて確認してください。

発表申込み期間は、2008年5月7日(水)~6月5日(木)正午(生物科学ニュース2008年1月号でお知らせした締め切り日から変更になりました)です。申し込み

内容の修正は6月12日(木)正午まで可能です。

大会参加のみの方は、8月29日(金)まで参加登録が可能ですが、6月5日(木)正午以降に申込みをした場合は、予稿集の参加者名簿にお名前が記載されないことがあります。

#### 8. 参加費と懇親会費

6月6日(消印有効)までに払込みの場合

参加費：一般会員 6,000円，学生会員 4,000円，  
非会員 7,000円

懇親会費：一般会員 6,000円，学生会員 5,000円，  
非会員 7,000円

6月7日以降に払込みの場合

参加費：一般会員 7,000円，学生会員 5,000円，  
非会員 8,000円

懇親会費：一般会員 7,000円，学生会員 6,000円，  
非会員 8,000円

大会参加費・懇親会費は、本号綴じ込みの第79回大会用郵便払込取扱票を使用してお支払いください。払込み

には、一人一枚ずつ払込取扱票を使用してください。一枚の払込取扱票を用いて、研究室単位等、複数の方でまとめてお支払いにならないでください。払込取扱票の払込金受領証は領収書としてお手元で保管してください。一度お支払いいただいた参加費・懇親会費は、原則として返却できませんのでご了承ください。

インターネットで申込まれた方は、申込みの際に登録番号(5桁の数字)が発行されます。この番号を第79回大会用郵便払込取扱票の所定の枠内に必ず記入してください。大会専用の払込取扱票を使用しない場合は、通信欄に登録番号、会員属性(一般、学生または非会員)、および払込み金額明細を必ず記入してください。

払込み先は以下の通りです。

郵便振替口座番号：01750-8-48296

加入者名：日本動物学会第79回大会準備委員会

#### 9. 高校生のポスター発表

高校生による生物研究のポスター発表を大会3日目(9月7日(日))に行います。申込み先は、大会準備委

### 日本動物学会第79回大会 一般発表の専門分野区分表

- |   |   |  |
|---|---|--|
| <p>A. 分類・系統</p> <p>1) 無脊椎動物</p> <p>2) 脊椎動物</p> <p>3) 進化・多様性</p> <p>4) その他</p>   | <p>D. 生理</p> <p>1) 心臓調節</p> <p>2) 呼吸・排出</p> <p>3) 感覚</p> <p>4) 神経興奮・神経伝達</p> <p>5) 脳・中枢</p> <p>6) 体色変化</p> <p>7) 体液調節・膜輸送</p> <p>8) 生体防御・免疫</p> <p>9) ニューロエソロジー</p> <p>10) 生物時計</p> <p>11) 個体運動・バイオメカニクス</p> <p>12) その他</p> | <p>7) 変態</p> <p>8) ホメオスタシス</p> <p>9) 行動とホルモン</p> <p>10) その他</p>  |
| <p>B. 形態・細胞</p> <p>1) 原生動物</p> <p>2) 多細胞動物</p> <p>3) 培養細胞</p> <p>4) 細胞骨格・細胞外基質</p> <p>5) 細胞周期・細胞分裂・細胞運動</p> <p>6) 鞭毛・繊毛運動</p> <p>7) 筋収縮</p> <p>8) 細胞内シグナル伝達</p> <p>9) その他</p> | <p>E. 生化学</p> <p>1) 糖質</p> <p>2) 脂質</p> <p>3) 天然物</p> <p>4) 核酸・タンパク質合成</p> <p>5) 酵素・タンパク質分子構造</p> <p>6) 代謝</p> <p>7) 膜・エネルギー変換</p> <p>8) その他</p>  | <p>G. 遺伝</p> <p>1) 遺伝子</p> <p>2) 遺伝子発現</p> <p>3) 集団遺伝</p> <p>4) 光修復・放射線</p> <p>5) ゲノム科学</p> <p>6) その他</p>                                    |
| <p>C. 発生</p> <p>1) 配偶子形成・減数分裂</p> <p>2) 受精</p> <p>3) 卵割・初期発生</p> <p>4) 形態形成</p> <p>5) 細胞分化</p> <p>6) 再生</p> <p>7) アポトーシス</p> <p>8) 老化</p> <p>9) その他</p>                       | <p>F. 内分泌</p> <p>1) ホルモン分子</p> <p>2) 受容体</p> <p>3) ストレス</p> <p>4) 生殖とホルモン</p> <p>5) 成長とホルモン</p> <p>6) 発生・分化とホルモン</p>  | <p>H. 生態・行動</p> <p>1) 個体群</p> <p>2) 異種間関係・群集</p> <p>3) 行動</p> <p>4) 生物社会</p> <p>5) 環境と生物</p> <p>6) 生活史</p> <p>7) 生物分布・生物地理</p> <p>8) その他</p> |
|   |   | <p>I. その他</p> <p>1) 科学史</p> <p>2) 研究技術</p> <p>3) モデル動物</p> <p>4) 理科教育</p> <p>5) その他</p>  |

## 宿泊・交通機関のお申込みについて

謹啓 皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、この度 第 79 回日本動物学会が 2008 年 9 月 5 日（金）～9 月 7 日（日）の 3 日間、福岡大学にて開催されるはこびとなりましたことを、心からお喜び申し上げます。

私共トップツアー(株)福岡支店におきまして、学会にご参加の皆様の宿泊、航空券、JR 券、食事エクスカーションなどの全般にわたりまして、お世話をさせていただくことになりました。

私共、福岡支店職員一同総力を挙げて、これに取り組み、すべての面に於いて万全の準備をいたし、ご満足のいただける学会でありますよう誠心誠意努める所存でございます。

職員一同、皆様方のご来福とご利用を、心からお待ち申し上げます。

謹白

トップツアー(株)福岡支店長 出口雅三

### 1. 宿泊・交通機関申込み HP アドレスと担当部署

※3 月 15 日より（土）閲覧可能となります

HP アドレス : <https://event.toptour.co.jp/ecas/zsj2008/system>

担当部署 : トップツアー(株)福岡支店

福岡市中央区天神 3 丁目 1 1 - 1

天神武藤ビル 4 階

営業時間 月曜日～金曜日 9:20～18:00

土曜日 9:20～12:40

TEL 092-739-0010

FAX 092-739-7773

学会担当責任者 千代島 誠

Email : [fukuoka@toptour.co.jp](mailto:fukuoka@toptour.co.jp)

### 2. ホームページのご案内

- ① 宿泊プランのご案内
- ② エアー&ホテルパックのご案内
- ③ JR 宿泊プラン
- ④ 福岡市内、会場、ホテルマップ
- ⑤ お申込み方法、締切日、お支払い方法等のご案内、その他の情報など

員会の高校生発表受付担当者(小泉 修 s-koizumi@fwu.ac.jp)です。申し込み方法等の詳細については、大会ホームページ(<http://www.zsj2008.umin.jp/>)をご覧ください。お知り合いの高校の先生方に参加を呼びかけてくださいますようお願い致します。優秀な発表には表彰を行います。

#### 10. 動物学ひろば

動物学ひろば「研究を支える個性的な動物たち - サイエンスと動物 -」は大会3日目(9月7日(日))に開催予定です。この企画への積極的な応募をお願い致します。企画の内容については、大会準備委員会の動物学ひろば担当者(伴野 豊 banno@agr.kyushu-u.ac.jp)にお問い合わせください。応募締め切り等の詳細については逐次大会ホームページに掲載します。

#### 11. 託児室

大会期間中に託児室を開設します。7月に電子メールによる利用希望予定者数の調査を実施します。ご利用予定の方は調査にご協力ください。

#### 12. 懇親会

大会2日目(9月6日(土))の午後7時からホテルニューオータニ博多にて懇親会を行います。福岡大学からは地下鉄七隈線で移動していただく予定です(所要時間30分程度)。皆様のご参加をお待ちしています。

#### 13. 宿泊・交通

宿泊等の予約は(株)トップツアーが幹旋します。本号に掲載の案内をご覧ください。また、宿泊案内は大会ホームページからもリンクしています。

#### 14. その他

予稿集だけを入手したい方は、第79回大会用の郵便払込取扱票の通信欄に「予稿集のみ」と明記して、2000円をお払い込みください。

大会開催に関する最新の情報は、大会ホームページで順次お知らせします。

#### 問い合わせ先

本大会に関するご意見やご希望がございましたら、下記にお寄せください。

日本動物学会第79回大会準備委員会

福岡大学理学部地球圏科学科生物学分野内

814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1

E-mail: doubutu79@fukuoka-u.ac.jp

TEL: 092-871-6631, 内線6275(藍), 6262(横張)

## 支部だより

九州支部では以下のように例会が開催されました。

#### 大分例会

日時: 12月16日(日)

場所: 大分大学

参加者数: 30名

講演:

1. 「別府市春木川における微生物について ケイソウと温泉の関係を探る」  
永井 聡 他5名(大分県立舞鶴高等学校 SSH 課題研究班)
2. 「微生物による浄化作用 ビフェニル分解微生物について」  
丸山理沙 他4名(大分県立舞鶴高等学校 SSH 課題研究班)
3. 「大分スポーツ公園における里山林の再生 苗木植栽10年後の群落組成と構造」  
須股博信(日本生態学会会員)
4. 「金鱗湖のオイカワの外部形態の特徴について」  
大倉鉄也(大分大学教育福祉科学部4年)
5. 「大分川水系のシマドジョウの倍数性について」  
松尾 駿(大分大学教育福祉科学部4年)

#### 長崎例会

日時: 12月8日(土)

場所: 長崎大学医学部

参加者数: 22名

講演:

1. 「長崎県諫早市における溜池の自然環境とフロラ - 季節変化の視点から -」  
藤木靖子<sup>1</sup>・金子由紀<sup>1</sup>・中西こずえ<sup>1</sup>・中西弘樹<sup>2</sup>  
(1:長崎大・環境 2:長崎大・教育)
2. 「大村湾島嶼における蘚苔類のフロラ多様性」  
金子由紀<sup>1</sup>・小林 業<sup>2</sup>・中西こずえ<sup>1</sup>・中西弘樹<sup>2</sup>  
(1:長崎大・環境 2:長崎大・教育)
3. 「大村湾沿岸の海岸植物のフロラと植生」  
中西弘樹<sup>2</sup>・小林 業<sup>2</sup>・中西こずえ<sup>1</sup>・金子由紀<sup>1</sup>  
(1:長崎大・環境 2:長崎大・教育)
4. 「日本でウエストナイル熱を媒介しうるイエカ2種の季節消長と吸血特性」  
大橋和典<sup>1</sup>・津田良夫<sup>2</sup>・阿部眞由美<sup>1</sup>・川田 均<sup>1</sup>・

( Z - 19 )

高木正洋<sup>1</sup> ( 1 : 長崎大・熱帯医学研究所 2 : 国立感染症研究所 )

5 . 「カエル副甲状腺の細胞外 Ca 感知とアラキドン酸カスケード」

岡田幸雄 ( 長崎大・大学院医歯薬・生体情報科学 )

6 . 「ニワトリ石灰化腱におけるレプリカ TEM 像による Landis 石灰化説の評価」

小野俊雄, 馬場友巳, 小早川健, 根本優子, 根本孝幸 ( 長崎大・大学院医歯薬・口腔分子生化学 )

7 . 「in vivo における哺乳類の精子形成促進及び維持系について ~ 成熟と未成熟の違いとは ~ 」

佐藤陽子<sup>1,2</sup>・野澤資亜利<sup>2</sup>・吉池美紀<sup>2</sup>・岩本晃明<sup>2,3</sup>

( 1 : 長崎大・大学院医歯薬・組織細胞生物学

2 : 聖マリアンナ医大・泌尿器 3 : 国際医療福祉大学病院・リプロダクションセンター )

#### 鹿児島例会

日時 : 12月8日(土)

場所 : 鹿児島大学理学部

参加者数 : 80名

高等学校における生物研究成果発表 :

口頭発表

1 . 「海水分析とプランクトン相からみた鹿児島湾沿岸の環境」

鹿児島県立国分高等学校 ( 理数科 2 年生物班 ) 大西敏博, 鶴丸能伸, 徳重謙也, 堀切修馬, 渡邊証貴, 荒武健太郎, 有馬翔平, 小畑友洋, 児玉高志, 平賀翔大 ( 指導 : 本村正徳 )

2 . 「オトシブミとその寄生蜂に関する研究」

鹿児島県立錦江湾高等学校 ( サイエンスクラブ 理数科課題研究班 ) 蔵満司夢, 笹山駿介, 秋廣駿, 花房愛美, 松久保舞優, 岩本愛梨, 山下志保, 泉紗貴 ( 指導 : 小溝克己 )

3 . 「キンチャクアオイの種内変異とその要因」

鹿児島県立市来農芸高等学校 ( 生物同好会 ) 坂元友成, 南田恭平, 丸尾直也, 田上真盛, 福ヶ野勇樹 ( 指導 : 久保紘史郎 )

ポスター発表

「スーパーサイエンスハイスクール 中間報告ポスター発表」

特別講演 :

「島嶼の外来種問題 - 鹿児島で最近騒ぎになったアフリカマイマイの紹介など」

富山清升 ( 鹿児島大学理学部・地球環境科学科 )

福岡例会

日時 : 12月8日(土)

場所 : 九州大学農学部

参加者数 : 38名

講演 :

1 . 「ポリネータによる花形質の選択 - ハマカンゾウとキスゲの F1・F2 雑種を使った進化生態学的研究」

廣田 峻 ( 九州大学理学部生物学科 )

2 . 「シロイヌナズナの耐凍性に関する新規遺伝子の同定」

大坪繭子 ( 福岡女子大・人間環境学 )

3 . 「イトマキヒトデの生殖腺刺激ホルモンの探究」

吉国通庸 ( 九州大学大学院生物資源環境科学府附属水産実験所 )

宮崎例会

日時 : 11月17日(土)

場所 : 宮崎大学教育文化学部

参加者数 : 20名

講演 :

1 . 「日本産モグラ類の地中利用深度の季節変化とその解明に向けて」

櫻村 敦 ( 宮崎大学・農学部・動物生産科学科 )

2 . 「大淀川と魚たち」

神田 猛 ( 宮崎大学・農学部・自然共生フィールド科学教育研究センター )

熊本例会

日時 : 11月17日(土)

場所 : 熊本県立大学

参加者数 : 30名

講演 :

1 . 「英国での研究留学を終えて」

北野 健 ( 熊本大・院・自然科学 )

2 . 「石灰藻とヤドカリの「偽植食」関係」

栗元美代子 ( 九州大・理・附属臨海実験所 )

3 . 「デジタル全天空写真による林内光環境の推定」

井上昭夫 ( 熊本県立大・環境共生・生態環境資源学専攻 )

## 佐賀例会

日時：11月10日(土)

場所：佐賀大学農学部

参加者数：40名

講演：

1. 「ショウジョウバエ脳で発現するストレス応答性遺伝子の解析」

河野 剛(佐賀大・農学部・昆虫学)

2. 「有明海湾奥部における貧酸素水塊がマクロベントス群集に与える影響」

吉野健児(佐賀大・有明プロジェクト)

3. 「塩生植物における塩毛の役割」

東江 栄(佐賀大・農学部・熱帯作物改良学)

公開講座(報告済)

「知ってるつもりで知られていない身近な昆虫の姿」

日時：8月19日(日)

場所：九州大学国際ホール

参加者数：150名

## 鹿児島例会

日時：7月7日

場所：鹿児島大学理学部

参加者数：25名

講演：

1. 「魚類の味蕾における神経伝達物質はATPか？」

桐野正人(鹿児島大学理学部)

2. 「魚類聴側線の受容機序と行動との関わり」

安樂和彦・渡邊賢二・中村 翔(鹿児島大学水産学部漁業工学分野)

## 沖縄例会

日時：5月26日(土)

場所：沖縄国際大学

参加者数：300名

シンポジウム

「外来種法の盲点：見えない脅威と琉球列島の生物多様性」

1. 「見えない外来種問題 - クワガタとダニを事例として - 」(仮題)

五箇公一(国立環境研究所)

2. 「ツボカビの野外拡散を防ぐには」

高良淳司((社)沖縄県獣医師会)

3. 「農林害虫としての外来生物 - デイゴヒメコバチの

例を中心に - 」

上地奈美(沖縄県農業研究センター)

第60回日本動物学会九州支部大会

日程：5月19~20日(土・日)

会場：九州産業大学工学部

参加者数：89名

講演：

1. 「胞胚後期のアフリカツメガエル胚における母性アポトーシス・プログラムの実行とカスパーゼ3」

\*塩川光一郎<sup>1</sup>，畔柳晋作<sup>1</sup>，池上拓也<sup>1</sup>，梶谷正行<sup>1</sup>，垣内 力<sup>2</sup>，関水利久<sup>2</sup>，五十嵐一衛<sup>3</sup>(<sup>1</sup>帝京大・理工・バイオ，<sup>2</sup>東大・薬，<sup>3</sup>千葉大・薬)

2. 「精子鞭毛の分子骨格タンパク質 Spetex-1 と Tektin 4 の解析」

\*金子たかね，瓦田一彦，栗尾仁之，佐田純一，飯田 弘(九州大院・農・動物)

3. 「ラット精巣に発現する新規イムノグロブリンスーパーファミリー遺伝子 Kuri-1 のクローニング」

\*栗尾仁之，金子たかね，飯田 弘(九州大院・農・動物)

4. 「半数体生殖細胞に特異的に発現する Tektin 2 の精子鞭毛における分子局在」

\*山本悦子，村山絵美，金子たかね，飯田 弘(九州大院・農・動物)

5. 「精巣特異的に発現する新規分子 Tektin5 の精子における局在について」

\*村山絵美，山本悦子，金子たかね，飯田 弘(九州大院・農・動物)

6. 「精巣上体から分泌される抗菌タンパク質 BPI の局在について」

\*矢野里枝子，金子たかね，飯田 弘(九州大院・農・動物)

7. 「ヒドラ EST プロジェクト - 発現遺伝子の網羅的検索」

\*衛藤愛子，美濃部純子，小泉 修(福岡女子大学・人間環境)

8. 「ヒドラのムスカリン性アセチルコリン受容分子に対する抗体作製」

\*渡邊知恵，美濃部純子，小泉 修(福岡女子大学・人間環境)

9. 「ヒドラの神経系の化学解剖学：新しい二重染色法の確立と利用」

( Z - 21 )

- \*小磯綾加, 美濃部純子, 小泉 修 (福岡女子大学・人間環境)
10. 「ヒドラの神経環」  
\*湯浦弘江<sup>1</sup>, 美濃部純子<sup>1</sup>, 岩崎雅行<sup>2</sup>, 小泉 修<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>福岡女子大学・人間環境, <sup>2</sup>福岡大・理・地球圏)
11. 「グリーンヒドラの有性生殖について」  
小早川義尚 (九大・理・生物)
12. 「土壌繊毛虫の動画および静止画データベースの構築 ; ユーザーフレンドリーなデータベースを目指して」  
\*久富裕子<sup>1</sup>, 橋本知義<sup>2</sup>, 島野智之<sup>3</sup>, 三好孝和<sup>1</sup>, 高橋忠夫<sup>1</sup> (<sup>1</sup>西九大・健康福祉・生物, <sup>2</sup>九州沖縄農研・土微研, <sup>3</sup>宮城教育大・EEC)
13. 「クロヤマアリを用いた食嗜好性に関する教材化の研究」  
奥 彩奈<sup>1</sup>, \*嬉 正勝<sup>2</sup> (<sup>1</sup>鹿加治木養, <sup>2</sup>佐賀大・文教)
14. 「ゴミムシダマシ蛹の腹部拍動による付属肢の血液循環」  
市川敏夫 (九大・院理・生物科学)
15. 「コガネグモに視覚系の構造」  
\*藤 義博, 趙 雪梅 (九大・院理・生物科学)
16. 「埋込電極を用いたカマキリ下降性ニューロンの応答の細胞外記録」  
\*山脇兆史, 藤 義博 (九大・院理・生物科学)
17. 「クロオオアリ触角の窩状感覚子と壺状感覚子の微細構造」  
\*成吉英里香, 岩崎雅行 (福岡大・理・地球圏)
18. 「フタホシコオロギの概日リズム出力ペースメーカーニューロンの発達」  
\*楢原佐由子, 下東美樹 (福岡大・理・地球圏)
19. 「ミツバチのジョンストン器官とその中枢投射の三次元解析」  
\*藍 浩之<sup>1</sup>, 西野浩史<sup>2</sup>, 下東美樹<sup>1</sup>, 伊東綱男<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>福岡大・理・地球圏, <sup>2</sup>北大・電子研・神経情報)
20. 「フグ科魚類4種における塩分耐性の違いについて」  
\*本橋英治<sup>1</sup>, 安東宏徳<sup>1</sup>, 土井啓行<sup>2</sup>, 杉山由貴子<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>九大・院農・動物資源科学, <sup>2</sup>下関市立しものせき水族館・海響館)

#### 熊本例会

日時：4月14日(土)

場所：熊本大学理学部

参加者数：72名

講演：

1. 「ショウジョウバエを用いた睡眠・覚醒制御研究」  
桑 和彦 (発生医学研究センター幹細胞制御分野)
2. 「DNA から見た日本列島フロラの成立過程」  
藤井紀行 (熊本大学・院・自然科学研究科)
3. 「暖温帯に生育する絞め殺しイチジクの結実フェノロジー」  
大谷達也 (森林総合研究所九州支所)

## 「生物科学ニュース」の購読・ご利用のおすすめ

近年の生命科学の進歩はめざましく、新しい分野が次々と開かれ、その結果として新しい学会や雑誌が次々と設立・刊行されると共に、日々各種の会合がめまぐるしく催されております。もはや個々の学会や個人がこれらの情報を処理していける時期ではなくなってきております。

この時代に対処してゆくために「生物科学ニュース」は日本動物学会および日本植物学会の和文情報誌として、会員への情報伝達、広報はもちろん、生物学に関連した学会・国際会議・シンポジウム・講演会・研修会などの開催予定とプログラム、人事・研究助成金などの公募記事、書評、関連分野の動向などを中心に、幅広く生物科学関連ニュースをもりこみ編集・刊行されています。

「生物科学ニュース」は両学会の約5,000名の会員に配布されていますが、会員以外の個人の方あるいは機関でもご購読いただけます。この機会にぜひご購読くださいますようお願い申し上げます。ご送付先、お電話番号など明記のうえ下記あてハガキ、またはファックスなど書面でお申し込みくだされば折り返し請求書をお送り申し上げます。

## 記

「生物科学ニュース」 月刊（毎月20日発行）/ B5判 / 毎号平均22頁

編集・発行 生物科学ニュース編集委員会（日本動物学会・日本植物学会）

年間購読料 3,100円（税込・送料無料）

購読料は原則として年間前払いでお願いしております。

ご希望の月号からご購読いただけますが、1月号から12月号までの12冊を一期間としますため、途中月からのご購読の場合は初年度のみ月割の購読料となります。以降は購読中止のご連絡をいただかない限り翌年に自動継続し1月号から12月号のサイクルで更新させていただきます。

機関購読の場合はご送付先にご担当の個人名をお入れください。

お支払いに際し特定の書類が必要な場合は作成いたしますのでご連絡ください。

見本誌ご希望の場合はお送りいたします。

すでに購読ご登録の場合はご容赦下さい。

年間購読料 3,100円（改定された場合は別途ご案内します）

〒113-0033 東京都文京区本郷2 - 27 - 2 東真ビル

（社）日本動物学会（TEL 03-3814-5461 FAX 03-3814-6216）

（社）日本植物学会（TEL 03-3814-5675 FAX 03-3814-5352）

関連記事掲載を御希望の方は、「生物科学ニュース」最新号を参照の上、記事を簡潔にまとめ、下記編集局宛にお送り下さい。編集委員会が関連記事と認めた場合には無料で掲載させていただきますが、様式の統一のため記事の手直しを行なうことがあります。なお、編集委員会では記事の要約表現の改訂を独自に行なうことがあります。また学会や研究会が独自の記事を出したい時には、その都度必要なスペース（“ひろば”欄）を買い切ることができます。“ひろば”の校正は買い切られた方をお願い致します。

料金：1ページ（2,000字） 40,000円

1/2ページ（1,000字） 20,000円

1/4ページ（500字） 10,000円

記事送付先：〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル 生物科学ニュース編集局

原稿をお送り下さる場合、以下の点にご留意下さい。

1) 生物科学ニュースに原稿をお送りいただく場合は、生物科学ニュース編集局 (bsnews@bsj.or.jp) に、電子メールの本文または添付書類（テキストファイル、マイクロソフトワードまたはアップルワークス書類に限る。ファイル名に拡張子を付ける。）で、Subject に「ニュース原稿」と記入の上、お送り下さい。フロッピーディスクを郵送いただいても結構です。なお、修飾文字や特殊文字をご使用の際は、同時にプリントアウトしたものをファックス（03-3814-6216）にてお送り下さい。図表等のファイルについては、予めご相談下さい。書式等は生物科学ニュース最新号をご参照下さい。

2) 現在のところ、書評欄への投稿は受け付けておりません。

3) 掲載原稿の締切日（必着）は以下の通りです。

No.437 2008年5月号 2008年3月10日（月）

No.442 2008年10月号 2008年8月11日（月）

No.438 2008年6月号 2008年4月14日（月）

No.443 2008年11月号 2008年9月15日（月）

No.439 2008年7月号 2008年5月12日（月）

No.444 2008年12月号 2008年10月13日（月）

No.440 2008年8月号 2008年6月16日（月）

No.445 2009年1月号 2008年11月17日（月）

No.441 2008年9月号 2008年7月14日（月）

No.446 2009年2月号 2008年12月1日（月）

---

生物科学ニュース No.435 2008年3月（月刊）

定価 270円（消費税込）

運営委員会

社団法人 日本動物学会 久保英夫・鈴木 忠・吉田 学 (<http://www.soc.nii.ac.jp/zsj/zool/>)

社団法人 日本植物学会 永田典子・澤 進一郎・小関良宏 (<http://bsj.or.jp/>)

編集委員会

社団法人 日本植物学会 岩井宏暁・鈴木光宏・水澤直樹・本瀬宏康・澤 進一郎（幹事）

社団法人 日本動物学会 阿部秀樹・佐藤 恵・立花和則・広橋教貴・鈴木 忠（幹事）

---

発行 (社)日本動物学会・(社)日本植物学会 生物科学ニュース編集委員会 〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2  
東真ビル / FAX 03-3814-6216

印刷 昭和情報プロセス株式会社 〒108-0073 東京都港区三田5-14-3 TEL 03-3452-8451

---

購読申込：生物科学ニュース編集委員会 / 〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル  
FAX 03-3814-6216

---